

## 日本における最初の私立幼稚園とその背景 (3)

——和歌山県の稚児保育所と桜井女学校附属幼稚園——

小林 恵子

明治十二年、東京の芝で近藤浜が近藤幼稚園を創立したという石井研堂の説は裏づけとなる資料が無く誤りであらうということを二回にわたって述べた。

さて、今回は明治十二年の文部省年報に掲載されている二つの保育施設、和歌山県の稚児保育所と桜井女学校附属幼稚園について考察したい。

### (A) 和歌山県の稚児保育所

明治十二年の文部省年報にはこの保育施設について次

のように記されている。

「其私立ニ係ル者ハ和歌山県ニ稚児保育所ノ一箇アリテ現ニ幼児男六名女七名ヲ保育スト雖モ未ダ其方法等ヲ詳スル事能ハズ其他一二ノ地方ニ於テ已ニ幼稚園設置ノ規画ヲナスモノアリト雖モ本年ニ於テハ未ダ其成績ヲ觀ルニ至ラズ」

この稚児保育所とは誰がどのような目的や方法で始めたのだろうか、保育所というが実際はどうだったのか。

まず、和歌山県の学校教育課に直接問いあわせたところ

る係の丸山御代治さんから「ご依頼のありました件について各方面へ連絡をとりつけているところですが今の段階では適当な資料がございません」との手紙を頂戴した。

そこで次には、この疑問に少しでも関係のありそうな

資料を調べてみることにしたが、今のところ稚児保育所についての資料が無く確かなことが何も言えないのが現状である。「日本幼稚園史」にも「和歌山県明治十二年に於て幼児保育所を設けたが永続を見ずして閉鎖した。」とある。<sup>(註1)</sup>この幼児保育所というのは文部省年報に記載されている稚児保育所と同じものであろう。いったい和歌山県のどこで誰が始めたのであろうか。ふしぎなことに明治十二年の和歌山県年報をみると、この稚児保育所のことが全く記載されていないのである。<sup>(註2)</sup>しかし同年の学事統計表をずっと見ていくと和歌山県のところで私立幼稚園数が一園と数が記載され、さらに私立幼稚園保母は一人で幼児数は男が六名、

女が七名とある。これは和歌山県の稚児保育所を私立幼稚園として取扱って学事統計表に記入したことが明らかであり、明治十二年の一園というのはこの保育所のことを指していると考えて間違いない。

こゝで疑問となるのは、和歌山県の稚児保育所を幼稚

明治十二年の学事統計表

私立幼稚園 児園			公立幼稚園 児園			官立幼稚園 児園			幼稚園				
	女	男		女	男		女	男		私立	公立	官立	
						四五		五四				一	東京
			二〇	三五							一		大阪
七	六						一			一			和歌山
			四九	三七							一		鹿児島
七	六		六九	七二	四五	五四	一	三	三	一	二	一	総計

(明治12年の学事統計表による、文部省 第七年報 掲載)

園として取扱つてよいかという点である。文部省年報で明確に「稚児保育所」と記載してあるものを「幼稚園」として取扱うことは資料の裏づけのない限り納得することができない。恐らくこれは和歌山県からの報告によつたものと考えるが、和歌山県の年報に全く記載されていないところをみると一体どこが稚児保育所のことを報告したのであらうか。和歌山県で報告されている関連事項はたゞ明治十三年一月二十日付で公立学校幼稚園および私立学校幼稚園に関する教育規則が制定されたことである。<sup>註⑤</sup>しかし教育規則が制定されたからといって幼稚園があったということにはつながらない。明治期は欧米の教育制度にみならつて実体はなくても規則がいち早く作成された時期であり、日本の近代化は欧米をモデルとして規則が先行して実体が生れるのを待つというふうであつたからである。したがつて、この稚児保育所の実態が明らかにされないかぎりはこの保育所を日本で最初の私立幼稚園という説には、私としては賛成しきれないのである。また保育所と明記したものを幼稚園として扱ふとす

れば、それ以前にあつた幾つかの名称の異なる保育施設の検討も当然なされなければならないのではなからうか。たしかに、この時期は幼稚園とか保育所といつてもその区別は明確でなく混沌としていたわけで施設の名称に余りこだわつてはならないというのはもつともなことである。しかし、そうかといつて資料の裏づけもないものを最初の私立幼稚園とすることには問題があると考えられる。また稚児保育所と明記したものを幼稚園とするに当つては幼稚園の概念が問題とされよう。幼稚園はフーベルが創始した Kindergarten が日本に移植されることによつて始められた保育施設であると考えてよい。したがつて明治になつて日本が西洋との接触を始めることにおいて導入された幼児のための教育施設であると考えてよいであらう。

さて、次にこの問題に多少なりとも関連した資料をあげておきたい。「日本幼児保育史」第一巻に「和歌山幼稚園」と題して「明治十三年五月、和歌山市に私立の和歌山幼稚園が創立されたが、長続きしなかつたように思

われる。この幼稚園は、和歌山女学校の教員兼校長であった榎本<sup>もとづね</sup>常が設立したものであるが、園について詳しいことはわからない。<sup>註(4)</sup>とある。榎本常については「明治保育文献集」別巻<sup>註(5)</sup>および「幼児保育学辞典」<sup>註(6)</sup>で簡単な履歴を私が書いているので多少なりとも参考にして頂ければと思うが、さきの稚児保育所と一体どのような関係があったのか明らかでない。

榎本常は安政二年（一八五五）和歌山県土族の生まれで和歌山県師範学校に学び小学校教師を勤めた。明治八年、東京女子師範学校に「読書教員」として招かれたが自分の学問の足りなさを知って教員から生徒に転じ、同十二年七月、同校小学師範科（二回生）を卒業した。向学心の強い努力家であったと考えられる。「読書教員」として招かれた人の中には豊田英雄がおり、また同校舎長として近藤浜がいた。豊田と近藤は翌年、附属幼稚園が創設されるに当って松野クララと共に保姆として活躍するのであるがここで考えられることは和歌山で小学校教師を勤めたことのある榎本が日本で最初の東京女子師

範学校附属幼稚園を見て少なからず刺激を受けたのではないかということである。同僚であった豊田英雄が保姆として活躍している姿にも啓発されたのではあるまいか。

また、この学校の摂理であった中村正直の影響が大きかったのではないかと推察される。中村は附属幼稚園の創設に最も貢献した人でフレーベルの幼児教育思想を根底から把え移植しようとした教育家、儒者で同時にすぐれた女子教育家であった。榎本が小学師範科を卒業しながら卒業後は小学校教師としてでなく女子教育と幼児教育に情熱を傾けたのもこうした人々の影響によるものと考えられる。

明治十二年七月に卒業し和歌山に帰った榎本は郷里で和歌山女学校を創立し教員兼校長として女子教育を始め、翌十三年五月に私立和歌山幼稚園を設置したというのであるが、このあたりが明らかではない。これが稚児保育所と同じなのか、資料の裏づけがないかぎり正確なことは何とも云えないのである。明らかなことは榎本が

明治十七年、岡山県師範学校附属幼稚園が創設されるに当って最初の保姆として女子科教師として招聘されたことである。「岡山県保育史」にも「十二年から十七年ま

での間、榎本は和歌山県で女学校の教師をし傍ら幼稚園の設立の仕事などにも従事していた。榎本の和歌山での幼稚園経営の経歴が買われたことも当然であろうが、東京女子師範の数少ない卒業生の一人をわざわざ岡山に呼んできたという点に、幼稚園に対する並々ならぬ熱意がうかがわれる。」と記されている。<sup>註7)</sup>「和歌山での幼稚園経営」というのが稚児保育所であるとすれば、これは幼稚園を意図として始められフレーベルの保育方法で行なわれたものと推察される。しかし稚児保育所は明治十三年には文部省年報および学事統計表からはずされ記入されていないところを見ると、榎本が十二年七月に東京女子師範学校を卒業し和歌山ですぐに稚児保育所を開き半年ばかりでやめたのか、幼稚園への情熱をもっていた榎本がなぜ稚児保育所という名称を用いたのか、財政的な問題ですぐにやめたのかなどの疑問がいろいろと考えられ

るわけで今のところ資料がなく不詳であるとしか云うことができないのである。

#### (C) 明治十二年の年報に記されている桜井女学校附属幼稚園

公的な資料がかなり揃っているのが桜井女学校附属幼稚園である。

明治十二年の文部省年報の「東京府」のところに「幼稚園ハ府下麴町区ニ愛媛県桜井ちか子ノ設立スルモノ一箇アリ」とある。この年報だけを見ると、この幼稚園は十二年に創立されたかのように思われる。文部省初等教育課に教育統計の表で明治十二年に一園とあるのはどの幼稚園であろうかと尋ねると、統計は文部省年報にもとづいているという返答を頂いた。筆者は文部省の教育統計で十二年に一園とあるのは年報に記されている桜井女学校附属幼稚園のことではないかと考えてみたこともあった。しかし、園児数をよく調べると十二年の男六名女七名は稚児保育所のことであることにほぼ間違いな

い。また桜井女学校附属幼稚園の創立が十二年でなく十三年四月であることは次にかゝげる(1)から(5)の資料でも明らかであると考えられる。

(1) 東京都公文書館にある開業届

東京都公文書館には明治十三年四月二十日の日付で桜井女学校附属幼稚園の開業御届が次のように残されている。<sup>(8)</sup>また幼稚園規則は写真として「東京の幼稚園」の書にも掲載されているので貴重な資料としてこゝでもあげておきたい。<sup>(9)</sup>

幼稚園開業御届

一 園名 桜井女学校附属幼稚園

一 位置 麹町区中六番町五拾四番地

右別紙規則書之通四月一日ヨリ開業仕候間此段御届申上候也

明治十三年四月二十日

麹町区中六番町五拾四番地

桜井 ちか ㊦

東京府知事 松田道之殿

右届出ニ付奥印候也

明治十三年四月二十日

麹町区長 矢部常行 ㊦

この書類には、このあと幼稚園規則と保育科目が記載されており最後に明治十三年四月とある。

(2) 明治十二年の文部省年報について

明治十二年のことを記載した文部省第七年報をみると、東京府年報が提出された日付は次にみるように十三年六月十九日となっている。<sup>(10)</sup>

東京府年報

明治十二年本府学事年報并に明治十一年伊豆七島学事年報左之通り調査候条致進達候也

東京府知事 松田道之

明治十三年六月十九日

文部卿輔 河野敏鎌殿代理

これは原則としては府県年報は歴年によるものであるものの、その年の一月から十二月までのことを扱っているのであるが、当時はまだ形式がととのつておらず実際には書類を提出した六月まで、すなわち翌年一月から六月までのことが含まれており、したがって桜井女学校附属幼稚園が創立された十三年四月が十二年の年報に記載されてしまったものと考えられる。このことは十三年以降の文部省年報によって明らかにされている。

(3) 明治十三年、十四年の文部省年報

明治十三年の文部省年報に「本年、ニ至リ、大阪府下ニ公立愛珠幼稚園及ヒ東京府下ニ私立桜井学校附属幼稚園ノ二箇ヲ開設セリ」とあり、更に十四年の年報には「其私立ニ係ルモノハ麴町区中六番町ニアル桜井チカノ設置スルモノ是ナリ此ノ園ハ明治十三年四月一日ノ創始ニシテ保育法ハ物品科、美麗科、知識科、及ヒ五十音、計数、唱歌、単語図、説話、体操ナリ保姆一名幼児十名内男四

名、女六名ニシテ、前年ノ実況ト大異ナキニ似タリ」とある。  
(傍点は筆者による)

以上でもわかるように十三年、十四年の文部省年報に桜井女学校附属幼稚園の創立が十三年であることが明記されており、十二年でないことが理解されよう。

(4) 私立幼稚園の園児数（明治十二—十四年）

私立幼稚園の園児数（Ⅰ）

年 度	園 数			在 園 児 数		
	国 立	公 立	私 立	国 立	公 立	私 立
明治12	1	2	1	99	141	13
13	1	3	1	105	311	10
14	1	5	1	98	318	10

(文部省、教育統計)

私立幼稚園の園児数（Ⅱ）

年 度	在 園 児 数		
	男	女	計
明治13	6	4	10
14	4	6	10

(東京府統計書調)

教育統計に記載されている私立幼稚園の園児数を明治十二年から十三年、十四年とあげてみたい。

この表でみると私立幼稚園は明治十二年は一園で園児数は十三名とあり、十四年と十五年も同じく一園で両年とも十名となっている。また、これを東京府統計書で調べてみると表Ⅱのように明治十三年の十名は男六名、女四名で、十四年は同数であるが男女の比が反対となり男四名、女六名となっている。この園児数は先に述べた明治十四年の文部省年報「幼児十名内男四名女六名ニシテ前年ノ実況ト大異ナキニ似タリ」の記事と一致するものであり、十三年と十四年は桜井女学校附属幼稚園の園児数を指していることが明らかである。そして、十二年の十三名は男六名女七名という稚児保育所の園児数とも一致するもので、十二年は和歌山の稚児保育所のことを、十三年と十四年は桜井女学校附属幼稚園のことを指していると考えて間違いないと思われる。

(5) 桜井女学校附属幼稚園の最初の保姆

桜井女学校附属幼稚園が十二年でなく十三年四月の創

立であったという裏づけは次のことから裏づけることができる。

この幼稚園の母体となった桜井女学校はミッション資金によらぬキリスト教主義の女学校として明治九年、東京の麴町に設立され、創立者、桜井ちかは牧師（桜井昭恵）の妻で日本の女子教育のため独力で始めた女学校であった。（この学校は後に新栄女学校と合併し女子学院となり現在に至っている。）附属幼稚園は桜井女学校を母体として設立されたが最初の保姆となった箕輪鶴（のち馬屋原と改姓）は東京女子師範小学師範科を明治十三年二月に卒業し、四月から勤めている。箕輪の教師履歴は次の通りで東京都公文書館に保存されている。註(1)

教師履歴

千葉県土族箕輪邦厚長女

東京府下深川区亀戸村三百五十四番地住

箕輪 鶴

万延元年 月 日生



明治八年十一月東京女子師範学校へ入校同十三年二月卒業候事

箕輪が東京女子師範小学師範科を明治十三年二月に卒業

したことは現在のお茶の水女子大学の卒業者名簿によっても明らかで「日本キリスト教保育八十年史」八七頁

に「箕輪つる、桜井女学校附属幼稚園の最初の保姆」として写真が掲載されている。<sup>註(6)</sup>「女子学院八十年史」四二

頁に「師範学校附属幼稚園保姆科第一回の卒業生を雇ひ」<sup>註(4)</sup>とあるのは間違いで箕輪は小学師範科第三回の卒業生であった。

以上の記述から桜井女学校附属幼稚園は明治十二年でなく十三年四月の創立であったことが明らかである。したがって和歌山の稚児保育所が幼稚園であったという確かな資料による裏づけがない限りは明治十三年の桜井女学校附属幼稚園が日本で最初の私立幼稚園であると考えて間違いないと思われる。すなわち全国で最初の私立幼稚園は明治十二年でなく十三年であってキリスト教主義

の桜井女学校附属幼稚園から始まったと考えられるのである。次回からは、この幼稚園が設立されたいきさつについて考察してみたいと思う。  
(国立音楽大学)

註(1)倉橋惣三・新庄よしこ共著「日本幼稚園史」臨川

書店 昭・五一 五四頁

(2)「文部省第七年報」文部省 宣文堂 昭・四一 二八八頁

(3)文部省「幼稚園教育百年史」ひかりのくに 昭・五四 八二頁

(4)日本保育学会編「日本幼児保育史」第一巻 フレール館 昭・四三 一八二頁

(5)岡田正章監修「明治保育文献集」別巻日本らいぶらり 昭・五二 一八二―一八九頁

(6)村山貞雄監修「幼児保育学辞典」明治図書 昭・五五 九〇―九一頁

(7)岡山県保育史編集委員会「岡山県保育史」フレール館 昭・三九 三五頁

(8) 明治十三年四月―六月私立学校書類

(9) 「東京の幼稚園」 東京都 都史紀要一四写真の最初の頁

(10) 「文部省第七年報」(前掲書) 三〇頁

(11) 明治十三年一月―十二月学務課往復書類

(12) お茶の水女子大学校蔭会卒業生名簿による、蓑輪ツルとある。

(13) 「日本キリスト教保育八十年史」基督教保育連盟編 昭・四一 八七頁

(14) 「女子学院八十年史」女子学院 昭・二六 四二頁

協力して頂いた施設および人

和歌山県学校教育課、東京都公文書館、国立教育研究所、文部省初等教育課、女子学院図書館、お茶の水女子大学校蔭会、国立教育研究所 佐藤秀夫氏

### クリスタル

連休に茨城の田舎へ行ったときにつかまえたといつて、美しい玉虫を小箱に綿をしいて入れて、Uちゃんは大事そうにみなに見せている。「ワァきれい! これ本物なの?」「プローチみたい」などと感想の声が聞こえる。私も彼の宝物を見せてもらう。「素敵、きれいね」とその緑の黄金色に輝く天然の装いに見とれていると、後から四―五人の男の子たちが「なあに?」「見せて」と集まって来た。

Uは得意気に「これ、玉虫だよ」と言ってみせてあげる。Hは目を丸くして「ワァ、クリスタル!」続けてTもしみじみと「クリスタルだなあ!」私もつられて何だかその玉虫の羽はクリスタルな輝きのように見えたものだった。

(K)